ベスト・プラクティスが集まるハブとして

2021 年度通信ソサイエティ会長 葉玉寿弥
Hisaya Hadama

2020 年 6 月、本会は会長声明：「『コロナ後』の新たな電子情報通信技術の発展に向けて」を発出しました。①働き方改革の促進、②レジリエントで安全な社会の構築、③新たな ICT 活用の促進、④新たな教育システムへの貢献、⑤全ての人々に ICT を一の 5 項目を掲げ、最先端の情報通信技術の開発により社会に貢献していくことを宣言したものです。

昨年秋以来パンデミックが急拡大し、現時点で日本でも医療のひっ迫が伝えられ、世界中で危機は更に深まっているように感じられます。ワクチン接種の進展など光明も見え始めてはいますが、今後、どれくらいの期間にわたって私たちの活動や産業界への悪影響が続くのか、懸念せずにはられません。この未曾有の災禍の中において、通信ソサイエティは、感染防止徹底を第一としながら会長声明に沿った学会の活動をたゆみなく持続していくことが大切だと考えます。社会の状況を注視しながら、ICT を利用した新しいやり方を積極的に取り入れ、社会的役割を着実に果たしていくことが私たちの使命だと思います。

2020 年 3 月の総合大会では大会委員会・学会事務局を中心とする迅速な判断とアクションによって、一部セッションをオンラインで開催することができました。この経験を踏まえて、昨年度のソサイエティ大会及び総合大会は全面的にオンラインで開催することができました。研究会のオンライン開催にもいち早く取り組みました。2020 年 2 月 26 日には本会研究会の運営方針を議論する研究会連絡会において、オンライン開催の実施方法が議論されました。3 月の研究会は中止を余儀なくされましたが、4 月からは各研究専門委員会の多大なる御努力によって多くの研究会をオンラインで再開させることができました。2020 年 6 月以後はほぼ例年どおりの回数の研究会を開催しており、7 月からは一部で会合とオンラインを組み合わせたハイブリッド形研究会も実施しています。研究会参加者数も何とか例年の 7 割を超えるレベルにまで回復しています。設立準備を進めてきた通信ソサイエティが主催する新たな国際会議 ICETC を 2020 年 12 月にス

タートさせました。コロナ禍の真ただ中でオンラインでの開催となりましたが、多くの関係者の御苦勞を礎に記念すべき第 1 回を成功裏に終了することができました。

この 1 年間の大会・研究会・国際会議のオンライン化の進展には目を見張るものがあります。これらはひとえに、学会活動に参画し御貢献頂いている大学・企業の多くの研究者・技術者、とりわけ若手研究者・技術者の集中的な御努力とチームワークの賜物です。学会は多様な人々が集い様々な考えが交わる「場」です。学会のイベントへの参加のみならず、運営サイドとして多くの会員が参画しています。是非とも、ICT を駆使した新時代の様々な新しいアイデアと工夫を学会イベント運営に持ち寄って、実践的チャレンジを試みる場として利用して頂きたいと思います。オンライン会議やイベント運営のベストプラクティスを共有し、それぞれの御所属の組織にお持ち帰り頂ければ、と願う次第です。

最後に一言、私自身の率直な思いを記しておきたいと思います。オンラインは“人脈を作る”ことにおいては、まだまだ会合には及びません。一流の人々と出会い、人柄に触れ、密かに相性を感じたり、セレンディピティーと呼べるようなひらめきをもたらす知的な会話や、機微情報に触れる雑談などを通じた実体験の価値は減じることはありません。これらは時間と旅費のコストを掛けても、それらをはるかに上回る価値を生み出すと確信しています。笹瀬巖会長の言われる「真の情報通信※」を実現するためにも、同じリアル空間をともにする学会イベントの全面的な再開が待たれます。一刻も早いコロナ禍の終息を願ってやみません。引き続き通信ソサイエティ会員の力を結集し、このパンデミックを乗り越えていくことに、また、五つの社会貢献に向けて情報の流通と議論を生み出す場の継続・発展のために、皆様の御尽力を賜ることができれば幸いです。

(※)「真の情報通信」については本会誌 2021 年 1 月号巻頭言を御参照下さい。